

連携バスだより ~がん地域連携バス編~ NO.11

早春の候、先生を初めスタッフの方々におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、がん地域連携クリティカルバスの運用に格別のご高配を賜り、感謝申し上げます。

今回のバスだよりでは、連携バス担当の医療者紹介、また肝疾患関連バスと、乳がんバスの報告をさせていただきます。

肝疾患関連バス

1. 消化器内科の医師紹介



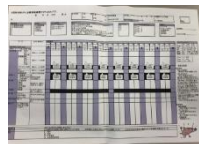
内田 靖医師



花岡拓哉医師



齋藤宰医師



~肝がんバスシート~



~大腸がんバスシート~



~肺がん「私のカルテ」~

2. 肝疾患関連バスの効果

約10年前は、C型肝炎治療としてインターフェロンが主であり、治療に6~12か月が必要でした（現在で8週間の内服加療で99%近くが治癒します）。その際、長期の治療期間中、かかりつけ医の先生方と連携を深めるためにインターフェロンバスを立ち上げました。その後、がんバス導入に伴い、肝がん治療バスを導入し、現在、肝疾患地域連携バスとして、先生方と連携させていただいております。

がんの治療後経過として、5年が一つの節目と考えられています。しかし肝がんの場合、患者の背景に肝がんの発がん因子があり、高頻度に再発を生じます。肝がん治療バスを導入しても、1~2年で再発バスを中断したケースも経験しました。一方、5年以上経過した患者さんもあり、どこで区切りをつけようか、考えていた矢先、6年目に再発を認め、無事に追加治療が行えた症例を経験しました。5年目を節目にして中断していたら、おそらく発見が遅れ治療できなかつたと考えます。治療直後は、患者さんも、医療者も、やや緊張しながらスクリーニングしますが、数年経過すると、なんとなく感じるようになる場合もあります。分厚くなっても、バスを通じて継続することの意味を再確認したケースでした。

先生方にもいろいろご負担をおかけすることも多々ありますが、今後とも地域連携バスをよろしくお願いいたします。

消化器内科 内田 靖

3. 病院訪問をさせていただきました

地域連携をより深めるため、また肝がん早期発見地域連携バスの稼働のために八束町の門脇医院・吉岡医院に訪問させていただきました。



門脇医院 門脇憲先生

地域を守る医師としての役割として、八束町の方を大切に思われる気持ちを聞かせて頂きました。

吉岡医院 吉岡志津枝先生

その人らしく生きることを大切にしながら、診療していただけることを聞かせて頂きました。



肝がん早期発見バス稼働に対し快諾頂くことができ感謝申し上げます。

今後、肝がんバスと併せて、肝がん早期発見バスの導入も増やしていきたいと考えております。協力をお願いすることがあると思います。よろしくお願いいたします。

胃・大腸がんバス

消化器外科の医師紹介



佐藤仁俊医師



杉本真一医師

肺がんバス

呼吸器外科の医師紹介



三和 健医師



宮本竜弥医師

連携バス開始8年が経過いたしました。連携医療機関の先生方をはじめ、スタッフの方々の協力のお陰で無事術後5年目を迎えた患者さんも多くおられます。次年度は新規導入患者を増やしていきたいと考えておりますので、また一つ協力のほどよろしくお願いいたします。



乳がんパスについて

1. 乳腺外科の医師紹介



村田陽子医師



曳野 肇医師



楨野好成医師

乳がんパス開始から8年が経過しパスの定着化に繋がっていると感じております。これも連携医療機関の先生をはじめスタッフの方々の協力の賜物と思ひ日々感謝しております。

2. 乳がん地域連携パスの効果

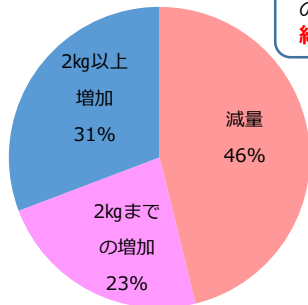
ホルモン環境が変わる上に、ホルモン治療の影響で生活習慣病の頻度が増加する、リスクの高い45～60歳の術後2年以上の連携患者さんを対象に、昨年度までのデータで連携パスの効果について、調査を行いました。

1) LDL-C変化の比較 (25例)

連携後**正常例が増加**

| | |
|-----------------|-----|
| (術前) 正常→(術後) 正常 | 15例 |
| (術前) 異常→(術後) 正常 | 5例 |
| (術前) 正常→(術後) 異常 | 2例 |
| (術前) 異常→(術後) 異常 | 3例 |

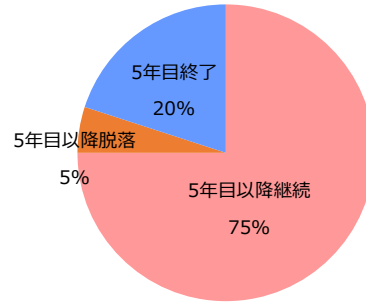
2) 体重変化の比較 (53例)



連携後、減量あるいは2kgまでの増加に留まった患者さんが**約70%**

患者データからも**連携パス効果が大きい**

3) 5年目以降の経過



5年目以降脱落の連携患者さんを含め**80%がパス継続を希望**されている

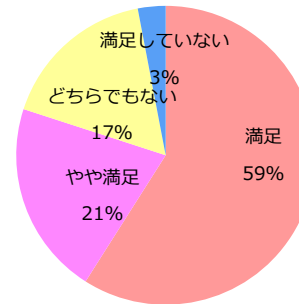
*また、連携前にかかりつけ医がなかった患者さんの5年目以降パス継続例は**75.8%**



連携パスをきっかけに**かかりつけ医の定着に繋がっている**

4) 連携医療機関への満足度

～患者アンケート結果より (H31年4月)～



連携患者さんの80%が満足と回答され、患者さんの**満足度の高いパス運用**ができている

3. がん地域連携パスコーディネーター看護師より

1) コーディネーター看護師の紹介



伊達山美保
看護師長



佐藤美幸



南波真理

次年度は3名で地域連携パスをサポートしてまいります。よろしくお願いいたします。

1) アンケート結果の紹介 (H31年4月)

コーディネーター看護師は日々連携患者さんに関わる中で、健康管理への意識を持って頂くための支援方法について悩んでいました。そこでアンケート調査を通し、連携患者さんの健康管理への意識づけへの支援内容を検討しました。

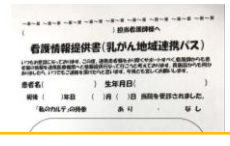
～アンケート結果より分かったこと～

- ・**40.50歳代**が他の年代に比べて健康管理行動を取りにくい。
- ・医療者が「私のカルテ」の確認をすることで、健康管理への意識づけのきっかけとなる。

～今後の取り組み～

- ・患者指導パンフレット作成
- ・連携医療機関の看護師さんとの情報共有

連携医療機関の看護師さんとも積極的に情報共有を図ることを目的に、連携患者用の看護情報提供書を作成しました。



情報提供書を活用していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。



ご不明な点等ございましたらいつでもご連絡して頂けたらと思います。今後とも連携パス運用へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



連絡先：松江赤十字病院
地域連携課
TEL:0852-32-7813
FAX:0852-27-9261